



The Tsuru Story

其の  
五

# 暮らしの章

時の  
流れの中で  
移りゆく  
暮らしの姿



# 伝統と技が織りなす風景



## 甲州織

Koshu Textile Industry

### 甲斐絹

— Kai Silk —

郡内地域で育まれた  
甲州織三百年の歴史。

平地の少ない郡内地域では米があまりとれなかったため、初代谷村城主の秋元泰朝は、養蚕と絹織物の振興に取り組みました。江戸で商業文化が開いた元禄（一六八八～一七〇四）のころには「甲斐絹」ブランドの人氣が高まり、江戸の呉服屋「越後屋（現三越）」の出張所などが市内に置かれていました。

明治に入り、甲斐絹は質・量ともに最盛期を迎えます。美しい絵が描かれた絵甲斐絹は、粋な旦那衆の羽織の裏地を飾りました。

明治三十八年には甲斐絹やそのほかの織物技術の向上を図るため、現在の山梨県富士工業技術センターの前身である「山梨県工業試験場」が谷村に設置されました。都留市の市制施行後も、谷村織物工業協同組合が設立され、織物品評会などが開催されました。

The first lord of Yamura Castle, AKIMOTO Yasutomo, determined that the region was not suited to rice production and directed his energies instead to sericulture and woven silk products. Edo was a city of mass consumption and its proximity provided an outlet for Kai Silk, which became popular during the Genroku Era (1688-1704), a period of fast-paced commercial development. Establishments such as Echigoya (now the department store Mitsukoshi) even had branches here. The height of Kai Silk's popularity came during the Meiji Period. The Yamanashi Prefectural Industrial Technology Center and the Yamura Textiles Industrial Cooperative Association were established and events such as textile fairs were held.



昭和31年 谷村織物工業協同組合設立



南都留染色学校開校記念

### 郡内縞

— Gunnai-jima (Striped Cloth) —

江戸や京都で流行。  
庶民の心をつかんだ郡内縞。

井原西鶴の浮世草子「好色一代男」には「郡内縞」の名前が度々登場します。甲斐絹の多くが美しい縞模様であったことから、甲斐絹の別称としても使われていました。先染め法によって創り出される魅力的な縞模様は、多くの江戸っ子たちが「粋」を感じ、愛用していました。

The name Gunnai-jima appears frequently in Koshoku Ichidai Otoko (The Life of an Amorous Man), by IHARA Saikaku. Kai Silk was also known as Gunnai-jima (striped cloth) because many of the products featured beautiful striped patterns, which caught the keen eye of many Edo men and women.



### 甲州織

— Koshu Textile Industry —

長い伝統と最新技術を  
融合させた現代の甲州織。

三百年にわたって培われた伝統と確かな技術を受け継いで、現在も都留市では甲州織が生産されています。先染め技術を生かし、深みのある色や独特の変化が甲州織の特徴となっています。生産現場での近代化が進み、最新のコンピューター技術を使っているデザインも行われています。

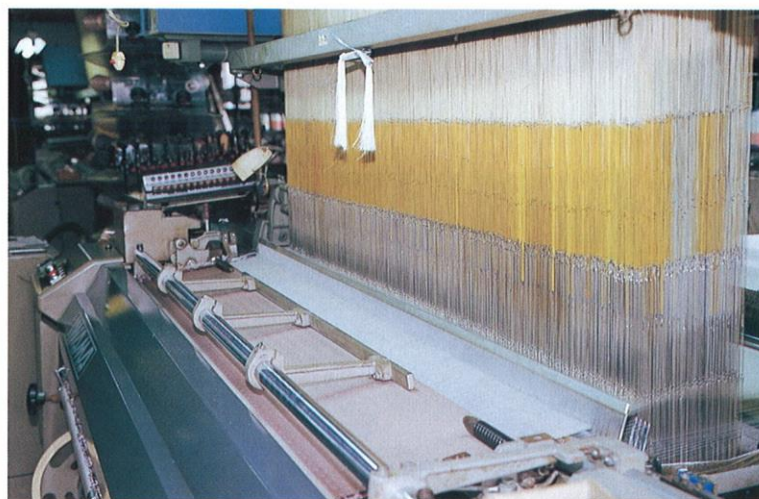
Backed by three hundred years of history and highly polished techniques, Koshu textiles are still produced in Tsuru City today. Yarn dyeing techniques lend depth to the colors and unique variations to the cloth. The industry is also currently undergoing a process of modernization.



郡内縞（甲斐絹）  
山梨県富士工業技術センター所蔵



色甲斐絹標本



平成16年 伝統と技術を生かした織物工場



# 受け継がれし 営みの風景

## 「商工業」

—Commerce and Industry—

人々の暮らしを支える  
都留市の産業。

都留市の産業といえば、繊維工業と機械金属工業です。繊維工業は、伝統ある甲州織の技術を継承した産業で、新製品の開発や販路の開拓など、時代にあわせて変化を遂げてきました。機械金属工業については、地域の主要な工業として、設備の近代化と技術水準の向上が図られてきました。

また、市内には昭和四十五年に閉山となるまで、八十年にわたって宝鉾山が経営されていました。

商業については、まちの顔である商店街を中心に発展してきました。

Industry in Tsuru City features a tradition of textiles and the machinery and metal industry. The Takara-kozan Mine was in operation for eighty years until 1970. Commerce developed centered on the city's commercial district.



採掘が盛んだっころの宝鉾山



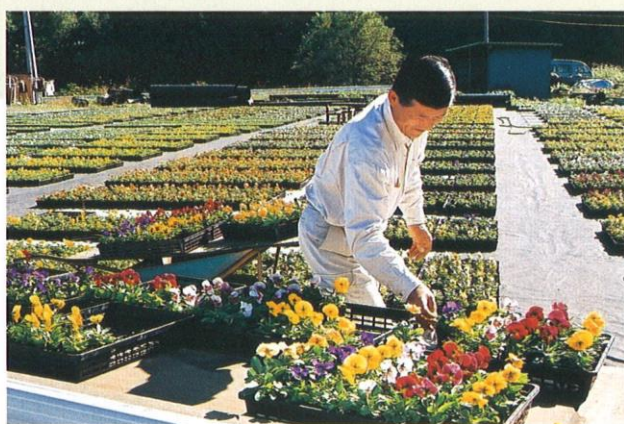
昭和36年 高尾町付近の銀座商店街にネオン街灯設置



平成16年 電装基板実装の工場



織物工場



平成16年 花き栽培



手植えによる田植え



平成16年 機械による収穫作業



昭和45年 水かけ菜栽培

## 「農業」

—Agriculture—

自然の恵みを  
生かした都留の農業。

平地が少ない都留市では、昔から米作が盛んではありませんでしたが、ほ場整備や農道の整備により、効率の良い生産が可能になりました。また、水稲収穫後の水田を活用して水かけ菜を栽培するなど、限られた水田が有効に活用されました。清涼な水を利用した山葵栽培や花き栽培なども行われています。

There are few flat areas in Tsuru, and rice could not be produced in volume, but land improvements and improvements to such things as roads have made efficient production possible. In addition, mizukakena greens are grown and the area's clear waters are used to grow wasabi horseradish and flowers.



# 暮らしを支えた 懐かしの風景

## 「暮らし」 — Lifestyle —

暮らしやすいまちで  
あるために、さまざまな  
施設などが整備されました。

市制施行以来、より暮らしやすい  
まちであるために、さまざまな整備  
が進められてきました。都留市誕生  
まもない昭和三十一年代には、電報電  
話局や市営住宅の整備、道路や橋、  
簡易水道など、生活を支える基盤整  
備が行われました。昭和四十三年に  
は待望の新庁舎が完成し、現在に至  
るまで市民サービスの拠点として機  
能しています。昭和五十年代には文  
化会館や市民総合体育館など、高ま  
りつつあった市民の生涯学習活動  
を支える施設が建設されました。平成  
に入ると都留市立病院や老人保健施  
設「つる」、保健福祉センター（いき  
いきプラザ都留）などが竣工し、健  
康や福祉施設の充実が図られました。

During the 1950's and 60's, just a short time after the birth of our city, a telephone and telegraph office was created, municipal housing provided and the foundation for the municipal infrastructure, including roads, bridges and basic water services was established. New government offices were completed in 1968, and the culture center and municipal gymnasium were constructed between the mid-1970's and the mid-1980's. Entering upon the 1990's, facilities such as the Tsuru City hospital and health and welfare center were also completed.



昭和30年 都留電報電話局開設



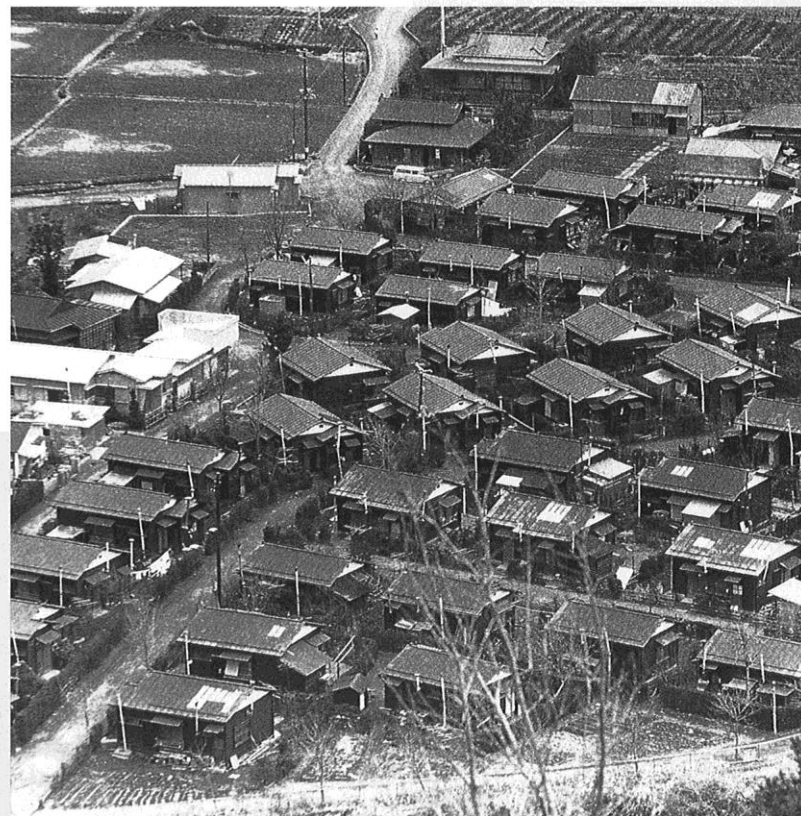
都留警察署旧庁舎



都留市民会館



消防自動車のパレード



月見ヶ丘市営住宅

## 「娯楽」 — Entertainment —

庶民にひとときの楽しみを  
与えていた娯楽の数々。

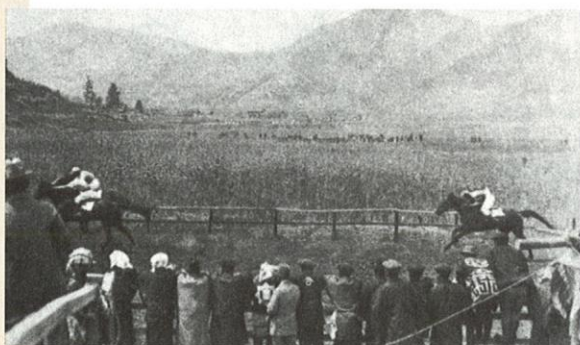
都留市にはかつて競馬場があり、  
人々にひとときの楽しみを与えてい  
ました。場所は現在の都留文科大  
学で、大正十三年に建設されました。  
毎年春と秋の二回、数日間にわたっ  
て開催されました。娯楽に乏しかっ  
た当時の庶民たちにとって、スポー  
ツなどとともに貴重なイベントでし  
た。競馬場は昭和八年ごろに廃止さ  
れました。

昭和三十一年代の初頭までは、映画  
館や劇場もありました。その代表的  
なものが谷村座と若松館です。

There used to be a horseracing track in Tsuru City that provided loads of fun to our residents. In addition to sports, it was an important source of entertainment for the people, who lacked leisure activities at the time. There also used to be a movie theater and playhouse until the early 1950's.



谷村座と若松館



競馬場



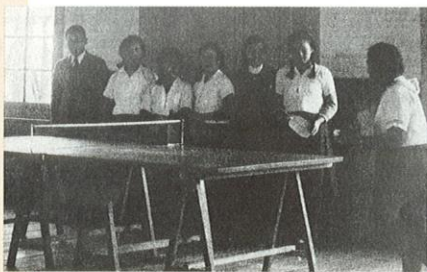
大正13年ごろ 谷村第一小学校 野球



大正初期ごろ 三の丸発電所付近 水泳



大正初期ごろ 大神宮付近 一本杖スキー



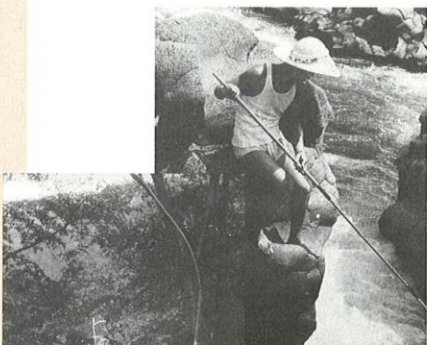
昭和17年 谷村高等女学校 卓球



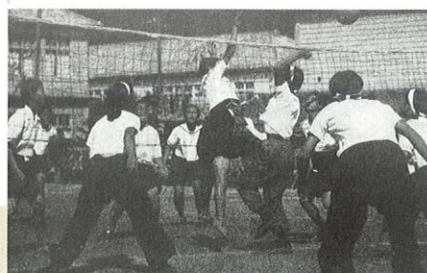
昭和初期ごろ 谷村第一小学校 テニス



昭和初期ごろ 金山神社前 スケート（下駄スケート）



昭和25年ごろ 石船神社 相撲



昭和17年 谷村高等女学校 バレーボール



昭和40年ごろ  
蒼電映 釣り



昭和44年ごろ 城南橋 城山早登り



昭和40年ごろ 谷村第一小学校 市民運動会



# 変わりゆく 学び舎の風景



平成16年 現校舎（昭和54年完成）

## 宝小学校

*Takara Primary School*

明治6年に金井学校、大幡学校、平栗学校としてそれぞれ開校。大正11年に統合して宝尋常小学校となりました。昭和54年に現校舎が完成しました。



昭和30年ごろ 御座石分校



昭和29年ごろ 平栗分校



旧校舎



平成16年 班ごとに給食を食べる子どもたち



平成16年 現校舎（昭和61年完成）

## 禾生第一小学校

*Kasei-daitchi Primary School*

明治6年に谷村学校禾生分校として開校。昭和42年に与繩小学校と統合となりました。昭和61年に現校舎が完成しました。



旧校舎（昭和22年より使用）



昭和42年ごろ  
閉校時の旧与繩小学校



平成16年 現校舎（昭和56年完成）



旧校舎（昭和25年より使用）

## 禾生第二小学校

*Kasei-daini Primary School*

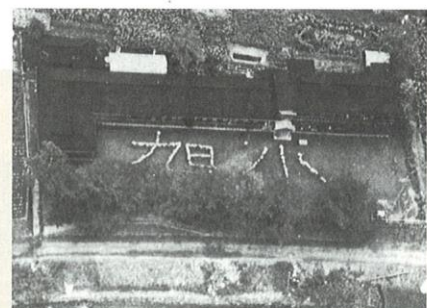
明治6年に谷村学校小形山分校、明治7年に谷村学校田野倉分校として開校。昭和22年に禾生小学校となり、昭和25年に分離して禾生第二小学校に。昭和56年に現校舎が完成しました。



平成16年 現校舎（昭和62年完成）



旧校舎（昭和35年より使用）



昭和29年 旧校舎

## 旭小学校

*Asabi Primary School*

明治7年に法能学校盛里分校として開校。昭和62年に現校舎が完成しました。

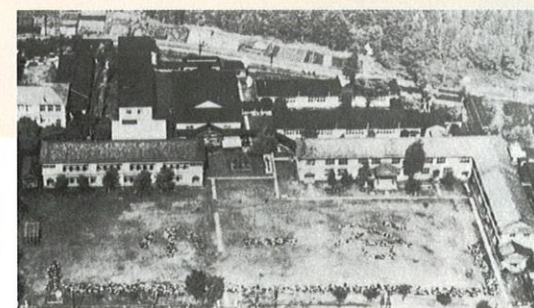


平成16年 現校舎（昭和41年完成）

## 谷村第一小学校

*Yamura-daitchi Primary School*

明治5年に谷村学校として開校。昭和41年に現校舎が完成し、昭和62年に大規模な改修が行われました。



旧校舎（大正3年から昭和40年まで使用）

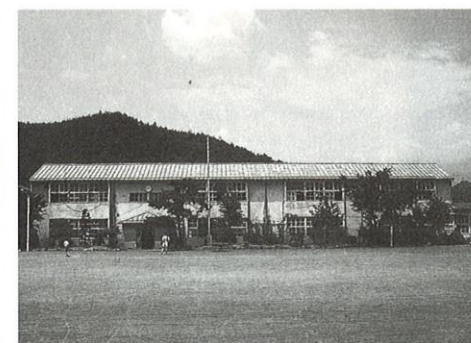


平成16年 現校舎（昭和60年完成）

## 谷村第二小学校

*Yamura-daini Primary School*

明治6年に法能学校として開校。昭和60年に現校舎が完成しました。



昭和55年 旧校舎（昭和29年より使用）

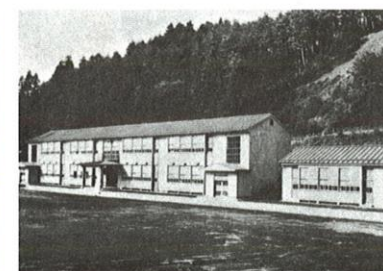


平成16年 現校舎（昭和63年完成）

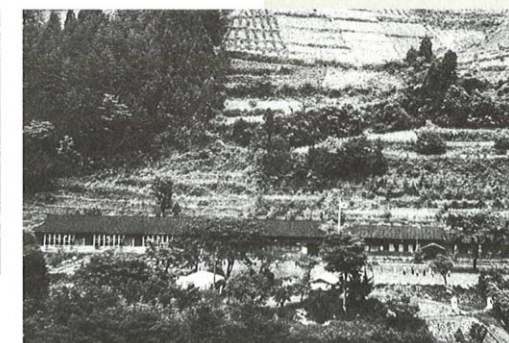
## 都留文科大学附属小学校

*Tsuru University Primary School*

明治7年に法能学校小野分校、政伝分校として開校。昭和63年に現校舎が完成しました。



旧校舎（昭和36年より使用）



昭和30年ごろ 旧校舎（明治30年より使用）



平成16年 現校舎（昭和50年完成）

## 東柱小学校

*Higashikatsura Primary School*

明治7年に小沼学校十日市場分校・夏狩分校・鹿留分校として開校。昭和50年に現校舎が完成しました。



旧校舎（昭和14年より使用）

子どもたちの可能性を育てる  
小学校の移り変わり。

もともと都留一帯は教育熱心な土地で、江戸時代には谷村興譲館と呼ばれる教育機関が設けられていました。その気風は明治以降も受け継がれ、昭和二十九年の市制施行後も、市は未来を担う子どもたちの教育に力を注いできました。現在、市内には八校の小学校があります。時代の流れの中で、学び舎の風景もまた移り変わってきました。

「小学校」  
— Primary Schools —

Great importance has long been placed on education throughout the entire Tsuru area, and educational facilities have been in place ever since the Edo Period. This remained unchanged even after the Meiji Period, and we have continued to stress education for our children, who will determine the future of Tsuru, ever since the founding of the city in 1954. We presently have eight primary schools and changes continue to take place in the learning environment in accordance with the changing times.



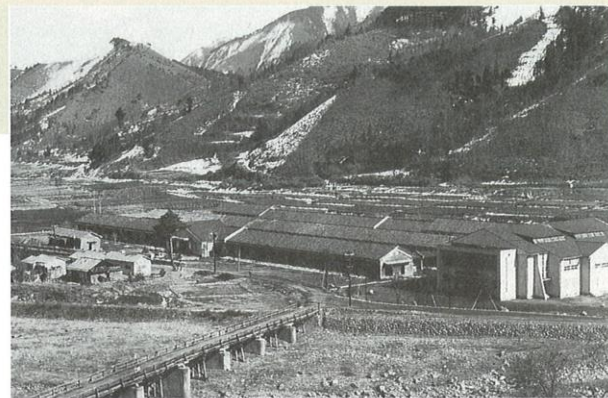
「中学校」  
ちゅうがっこう

— Junior High Schools —

終戦後もない  
 昭和二十二年、いち早く  
 中学校が整備されました。

昭和二十二年に制定された学校教育法に基づき、谷村中学校、禾生中学校、宝中学校、盛里中学校、東桂中学校が開校されました。昭和四十一年に統合が行われ、都留第一中学校、都留第二中学校、東桂中学校の三校となり、現在に至っています。

In 1947, just after the close of the war, five junior high schools were reorganized along the lines of the School Education Law. Some of the schools merged in 1965, creating the three that still exist to date.



昭和33年ごろ 谷村中学校



平成17年 現校舎（昭和48年完成）

都留第一中学校

*Tsuru-daitchi Junior High School*

昭和22年に谷村中学校として開校しました。昭和40年に谷村中学校、禾生中学校、宝中学校、盛里中学校を廃し、都留第一中学校と都留第二中学校が新設されました。昭和48年に現校舎が完成しました。



昭和33年ごろ 旧禾生中学校

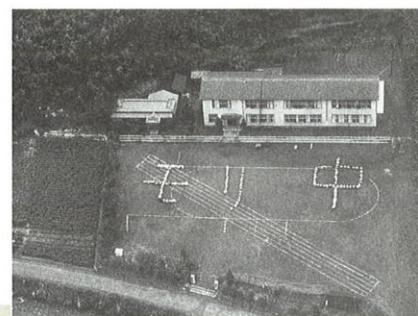


平成17年 現校舎（昭和41年完成）

都留第二中学校

*Tsuru-daini Junior High School*

昭和22年に禾生中学校、宝中学校、盛里中学校として開校しました。昭和40年に谷村中学校、禾生中学校、宝中学校、盛里中学校が廃し、統合中学校として都留第一中学校と都留第二中学校が新設されました。昭和41年に現校舎が完成しました。



昭和30年ごろ 旧盛里中学校



昭和32年ごろ 旧宝中学校

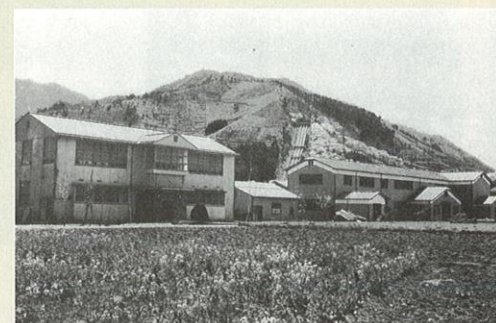
東桂中学校

*Higashikatsura Junior High School*

昭和22年、東桂小学校の校舎を一部使用し、東桂中学校として開校。昭和24年に旧校舎が東桂小学校に併設され、昭和32年に現在地へ移転。昭和52年に現校舎が完成しました。



平成17年 現校舎（昭和52年完成）



昭和33年ごろ 旧校舎（昭和24年から使用）

「都留文科大学」  
つるぶんかだい

— Tsuru University —

卒業生が全国で  
 教員として活躍しています。

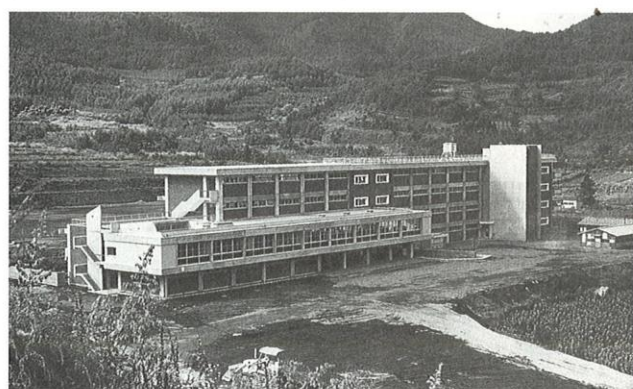
都留文科大学は、昭和二十八年四月に創立された山梨県立臨時教員養成所として発足したのを始め、その二年後には市立都留短期大学、昭和三十五年には当時珍しかった公立の四年制大学、市立都留文科大学となりました。初等教育学科と国文学科があり、卒業生の多くが優秀な教師として全国へと巣立っていきました。平成七年には、大学院・文学研究科も開設されました。

全国から集まってくる学生と地域の交流も盛んです。さまざまなイベントを通し、市民にとって親しみ深い大学となっています。

Tsuru University got its start as the Yamanashi Prefecture Educational Institute, which became the Tsuru Municipal Junior College in 1955 and then Tsuru University when a four-year system was adopted in 1960. The university has departments of Primary Education and Japanese Literature, and a graduate school and a Department of Literary Research were established in 1995. The students and local citizens have many opportunities for communication, and the university is a familiar feature in the lives of the people.



文大第八回大学祭



昭和41年 都留文科大学校舎完成



旧大学校舎  
 校舎の玄関脇には一株のしだれ桜があり、学生歌「花のかげ」は、この桜から想を得て作詞されたといわれています。



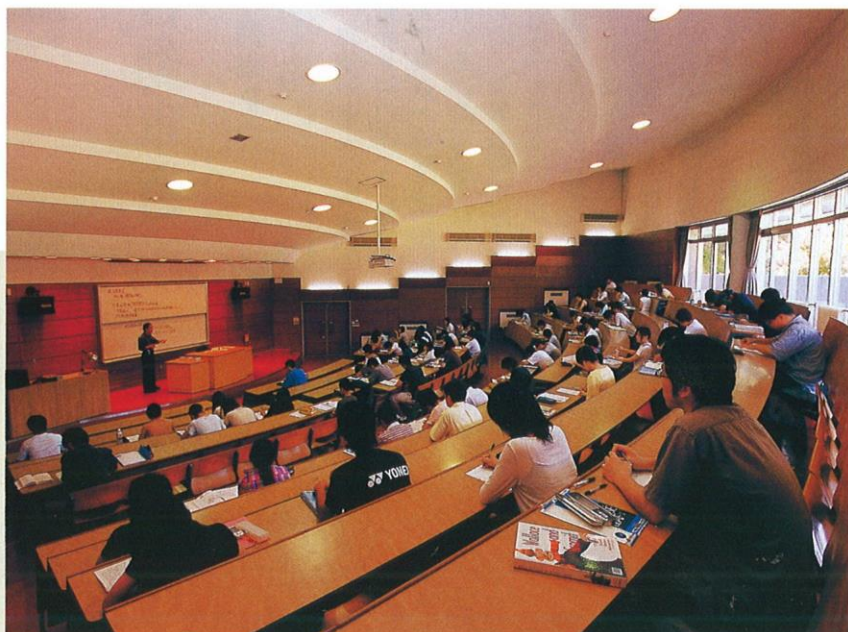
山梨県立臨時教員養成所



キャンパス



第48回学園祭



講義風景



# 人と人をつなぐ 道の風景

【道路】  
— Road —

市制施行以来、  
着々と整備が進められました。

昭和二十九年の市制施行当時は、道路といえば未舗装がほとんどで、自動車走ると土埃が立ちのぼりました。その後、昭和三十年代から現在に至るまで精力的に主要道路や水路、橋などの都市基盤が整備されました。

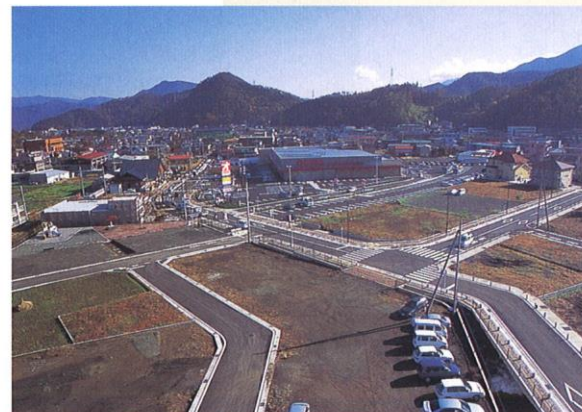


平成16年 四日市場古川渡線

When the city was founded in 1954, almost none of the roads were paved and dust billowed up when automobiles passed by. Road improvements began in the late 1950's, and many bridges have since been erected and important roads were constructed.



昭和初期 上谷町を走る自動車



平成16年 田原土地区画整理事業完成

【中央自動車道】  
— Chuo Expressway —

自動車時代の到来を  
象徴していました。

昭和四十四年、待望の中央自動車道富士吉田線が、大月から河口湖まで開通しました。これにより東京との時間的距離が大幅に短縮され、その経済効果に市の期待が高まりました。開通当時は片側対面通行で、東京方面への乗り口しかありませんでした。昭和五十九年に東京方面からも降りられるようになり都留インターチェンジ（ハーフインター）が開通しました。現在、念願の富士北麓・東海方面への中央道都留フルインターの建設も予定されており、経済・文化交流を促進し、市の振興発展のための都心と都留を結ぶ重要なルートとして、期待されています。

In 1969, the Otsuki-Kawaguchiko section of the long-awaited Fuji-Yoshida Route of the Chuo Expressway opened to traffic. This greatly reduced the distance in time between Tsuru and Tokyo, raising expectations for the economic effect this would have on our city. People are now looking forward to construction beginning on a large planned interchange that will lead toward Fujiyokuroku and the Tokai region.



昭和43年 建設中の中央自動車道

【鉄道】  
— Railway —

馬車鉄道から電車へ。  
時代とともに移り変わる鉄道。

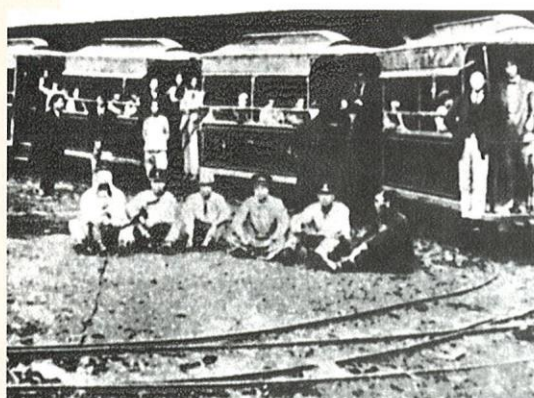
都留市の鉄道史は、明治三十六年開通の都留馬車鉄道と富士馬車鉄道にさかのぼります。当時は道に軌道と呼ばれるレールを敷き、その上を馬がテト馬車を引いて走りました。当時は大月～吉田間で約四時間かかりました。都留電気鉄道と富士電気鉄道に名称を変えていた両社が大正十年に合併し、富士電気鉄道となりました。機関車の登場で大月～上吉田間は約二時間となりました。その後、昭和二年に経営を引き継いだ富士山麓電気鉄道（株）が電車を走らせ、大月～富士吉田間は五十分に短縮されました。

現在は富士急行が大月～富士吉田間を約四十五分で結び、都留市駅から新宿（JR中央線利用）までは約一時間半の距離となっています。市民と都留文大生をはじめ、観光客の足として愛されています。



平成16年 富士急行線

The history of the railway in Tsuru City began in 1903 when the Tsuru Basha Tetsudo and Fuji Basha Tetsudo railroads opened. Horses pulled carriages along the tracks and it took approximately four hours to go between Otsuki and Yoshida at the time. The Fuji Kyuko Line now goes between Otsuki and Fuji Yoshida in just about forty-five minutes, and you can get to Shinjuku in Tokyo (using the JR Chuo Line) from Tsurushi Station in approximately ninety minutes. The railway is loved by residents, Tsuru University students, and visitors alike as a convenient mode of transportation.



大正13年ごろ 富士電気軌道車庫



平成16年 都留文科大学前駅完成



リニア見学センター



新型リニアモーターカー

【リニア実験線】  
— Linear Experimental Line —

時速五百キロの夢：  
実現に向けて  
開発が進んでいます。

日本の最先端技術を集めた超電導磁気浮上式鉄道（リニアモーターカー）が、緑の田園風景の中を時速五百キロで走り抜けていきます。この新たな交通システムの研究が、平成九年度より都留市の山梨リニア実験線に進められています。完成すれば東京～大阪間が約一時間で結ばれることとなります。

Japan's state-of-the-art technology has been put to the test in doing research for the Linear Motor Car (electromagnetically levitated train) ever since the Yamanashi Linear Experimental Line was built in 1997. If completed, it will take approximately only one hour to go between Tokyo and Osaka.